

上場会社名 USEN 上場取引所 東
 コード番号 4842 URL http://www.usen.com/
 代表者 (役職名)代表取締役社長 (氏名)田村 公正
 問合せ先責任者 (役職名)取締役副社長執行役員CFO (氏名)馬淵 将平 (TEL)03-6823-7015
 四半期報告書提出予定日 平成29年7月5日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成29年8月期第3四半期の連結業績(平成28年9月1日~平成29年5月31日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
29年8月期第3四半期	56,961	4.2	8,202	5.6	8,044	12.6	5,371	△2.1
28年8月期第3四半期	54,671	4.2	7,766	△2.4	7,143	△4.9	5,488	△6.1

(注) 包括利益 29年8月期第3四半期 5,399 百万円 (△1.9%) 28年8月期第3四半期 5,505 百万円 (△6.6%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
29年8月期第3四半期	26.07	—
28年8月期第3四半期	26.64	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
29年8月期第3四半期	73,385	37,709	51.4
28年8月期	69,136	27,738	40.1

(参考) 自己資本 29年8月期第3四半期 37,709 百万円 28年8月期 27,738 百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
28年8月期	—	0.00	—	3.00	3.00
29年8月期	—	0.00	—	—	—
29年8月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成29年8月期の連結業績予想(平成28年9月1日~平成29年8月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	円 銭
通期	78,700	6.9	10,800	5.8	10,500	10.4	6,100	△18.3
								29.60

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(注) 詳細は、添付資料P. 6「2. サマリー情報（注記事項）に関する事項 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示」をご覧ください。

(4) 発行済株式数（普通株式）

- ① 期末発行済株式数（自己株式を含む）
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数（四半期累計）

29年8月期3Q	207,148,891株	28年8月期	207,148,891株
29年8月期3Q	1,180,437株	28年8月期	1,101,936株
29年8月期3Q	206,024,681株	28年8月期3Q	206,050,072株

※ 四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確定な要素を含んでおります。実際の業績等は、状況の変化等により、予想数値と異なる場合があります。

なお、業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、【添付資料】P. 5「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

（四半期決算補足資料の入手方法について）

平成29年8月期 第3四半期 決算概況資料は、本日（平成29年6月30日）、当社ホームページで開示しております。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	5
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	5
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	6
会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	6
3. 四半期連結財務諸表及び主な注記	7
(1) 四半期連結貸借対照表	7
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	9
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	9
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	10
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	11
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	12
(継続企業の前提に関する注記)	12
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	12
(セグメント情報等)	12

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

(全般的な業績の状況)

当第3四半期連結累計期間（自平成28年9月1日至平成29年5月31日）における我が国の経済は、企業収益は引き続き底堅く、また個人消費は総じてみれば持ち直しの動きが続いております。雇用環境は良好に推移するものの、商品価格の相次ぐ値上げや人手不足・労働環境の見直し、更には海外経済の不確実性による企業業績、個人消費への影響もあり先行きが見えにくい状況にあります。

このような状況の中、当社グループは音楽放送サービスの主なお客様である業務店の課題である集客支援や再来店のニーズに対応するためのサービスを始め、ホテル・病院・ゴルフ場や中小オフィスといった様々なB to Bマーケットのお客様の新たなニーズや課題をワンストップで解決する業務店向けソリューション提供企業としての地位を確固たるものとするため、引き続き既存事業を強化するとともに、店舗開業を希望する方々をサポートするためのコンテンツや電力を中心としたエネルギー事業への参入等、サービスラインナップの充実にも引き続き積極的に取り組んでまいりました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高56,961百万円（前年同四半期比4.2%増）、営業利益8,202百万円（前年同四半期比5.6%増）、経常利益8,044百万円（前年同四半期比12.6%増）、また親会社株主に帰属する四半期純利益につきましては5,371百万円（前年同四半期比2.1%減）となりました。

当社グループの各セグメント別の売上高（セグメント間の内部売上高又は振替高を含む）及び営業利益は以下のとおりであります。

<音楽配信事業>

音楽配信事業は、当社グループの事業の軸であり、今後においても、その安定的な収益基盤を維持し、強化していく方針です。このため、業務店向け・個人向け市場において顧客との取引の維持拡大、新規顧客の獲得及びブランド力の改善に取り組んでまいりました。

特に業務店・チェーン店向けには、店舗及び商業施設向けサービスのラインナップの充実を企図し、音楽放送サービスを中心に開業支援や事業環境の構築から集客・販売促進までトータルのソリューション提供やサポートをご提案してまいりました。

店舗及び商業施設向けサービスの主なラインナップとしては、多機能×低価格なタブレットPOSレジである「USEN Register」、店舗アプリ作成サービス「UPLink」、業務店向けWi-Fiサービス「USEN SPOT」やチェーン店向けWi-Fiサービス「USEN SPOT Enterprise」、スマートフォンやタブレットで簡単接続&操作で話題のIPカメラ「Viewlaシリーズ」、飲食店向け予約サービス「USEN Reservation」、インターネット回線「USEN光」等を取りそろえ、更にオフィス向けサービスとして職場環境を改善するオフィスBGM「Sound Design for OFFICE」やメンタルヘルスケア対策支援のASPサービス「こころの保健室」等、音楽放送サービスと併せてこれらの商材の利用促進に注力してまいりました。

また、店舗・施設における急速なICT化に対応するため、平成29年5月にはカード決済サービス「USEN PAYGATE」の販売を開始いたしました。利便性向上や決済手数料のコスト軽減を可能とする等、引き続きサービス拡大に取り組んでまいりました。

その結果、音楽配信事業の当第3四半期連結累計期間における売上高は30,923百万円（前年同四半期比1.6%増）、営業利益は7,116百万円（前年同四半期比6.7%増）となりました。

<業務用システム事業>

ホテル・病院・ゴルフ場等の業務管理システム及び自動精算機の開発・製造・販売等の業務用システム事業は、㈱アルメックス（連結子会社）が行っております。

当該事業の市場環境は、金融緩和による資金需給の改善等に伴い設備投資需要は増加傾向にあります。

ホテル市場においては、2020年東京オリンピックに向け今後更に増加が見込まれる訪日外国人への対応や人手不足を補完するべく、ITソリューションの導入ニーズの高まりを受けて、引き続きホテル管理システム、自動精算機等の導入のニーズが高いことから、新商品の市場投入や提案型営業の強化により顧客ニーズを捕捉し、市場浸透率の向上とシェアの拡大に向けて継続的に取り組んでまいりました。

平成27年7月にハウステンボスにオープンした「変なホテル」に引き続き、平成29年3月に新たに開業した「変なホテル舞浜 東京ベイ」でも自動精算機をご導入いただきました。更に新製品である電子宿泊台帳「Sign Up」のソリューション群も併せてご導入いただいております。

導入後の保守メンテナンスや、顧客ニーズにマッチしたきめ細かいカスタマイゼーションに注力し、効率的で安定したサービスの提供を図ることで顧客との信頼関係を強化し、事業基盤の一層の強化・安定化に努めてまいりました。

また、新規製品やカスタマイズ製品の品質強化を図るため、開発・製造プロセスやフィールドサービスの改善活動に継続的に取り組んでおります。

新たな市場の獲得に向けては、省スペース化を実現したクリニック・調剤薬局向けの自動精算機の開発、ホテル・病院向けの次世代型ソーシャルロボット「unibo」の市場投入準備等を行ってまいりました。

その結果、業務用システム事業の当第3四半期連結累計期間における売上高は12,211百万円（前年同四半期比1.7%減）、営業利益は1,238百万円（前年同四半期比21.1%減）となりました。

<ICT事業>

ICT事業は、「USEN GATE 02」のブランドでネットワーク関連サービス事業やクラウドサービス事業を行っております。

当該事業は、当社の顧客基盤の一つであるオフィスに特化し、顧客ニーズにマッチした業務環境改善を提案するとともに、オフィスのICT環境構築をワンストップで提供可能な体制作りに取り組んでおります。

多くの顧客に接し、様々なご要望にお応えするためにサービスラインナップの強化を推し進め、現在約160以上のサービスを取りそろえるマルチサービスベンダーとして成長。顧客ニーズに応えるサービスラインナップの拡充に絶えず取り組んでおります。

ネットワーク関連サービス事業においては、アルテリア・ネットワークス㈱の法人向けインターネット接続サービスの販売でNo.1の実績を誇り、また㈱インターネットイニシアティブ社のSMBマーケット向けNo.1パートナーとしても活動しております。

平成28年9月から販売を開始した新型ネットワークサービスである「ビジネスVPN (Omnibus)」の販売実績を高く評価いただき、平成29年3月にはIIJ Omnibus サービスアワードを受賞しました。

クラウドサービス事業においては、Google Inc.のプレミアパートナーの認定を受け、「G Suite」（旧 Google APPS for Work）の販売に注力する他、サイボウズ㈱からもプラチナパートナーの認定を受け各種SaaSサービスの販売に注力しております。

更に、平成29年4月に開催されたサイボウズ・アワード2017では当社の販売実績を評価いただきセールス賞を受賞、3年連続でアワードを受賞しております。

各取引先様からは、当社の販売実績もさることながら、最高レベルの提案・サポート力やきめ細かい対応による顧客からの信頼についても高い評価をいただいております。

その結果、ICT事業の当第3四半期連結累計期間における売上高は8,636百万円（前年同四半期比9.6%増）、営業利益は616百万円（前年同四半期比15.9%増）となりました。

<その他事業>

その他事業として、業務店顧客の集客を支援する集客支援事業、エネルギー事業、音楽著作権の管理・開発事業や新規商材・サービスの開発・立ち上げを行っております。

集客支援事業では、飲食店向け集客支援サービス「ヒトサラ」を展開しております。

「ヒトサラ」は、料理人（ヒト）と料理（サラ）にフォーカスしたグルメレストラン情報サイトで、平成28年12月には、1万人を超える料理人情報をもとに、食のプロである料理人からの推薦「シェフのオススメ数」等を参考に、ヒトサラ編集部が厳選した「2016年のベストシェフ&レストラン」を発表、平成28年は100人100店舗を選出。食の目利き・舌利きであるプロの料理人と、食を愛しその魅力を伝える編集部が選んだ「ベストシェフ&レストラン」を、大切な日のレストラン選びの参考として、また、旅先でのグルメを楽しむガイドブックとして活用できるようなコンテンツを創出し、他の情報サイトと差別化したサービスを展開しております。

平成29年7月には、5周年を記念した「シェフがおすすめするお店”シェフ推し”」を発行する予定です。

月替わりでテーマを変えてお届けするワンランク上のグルメ特集『ヒトサラSpecial』では、今、目まぐるしく進化を遂げているアジアの美食シーンに注目。海外進出の第一弾では、人気急上昇中の食都・シンガポールの美食に迫りました。そして第二弾としてバンコクを予定しております。

更に、美容サロンで働くスタイリストにフォーカスをあて、理想のスタイリストに出会えるWEBマガジン「bangs」からフリーマガジンが誕生。「Hair × Beauty × Culture」をテーマに、豊富な情報量とクオリティにこだわった誌面構成で美容情報や音楽、映画等のカルチャーニュースをお届けしてきました。

平成29年5月には、日本最大級の国際総合ビューティ見本市「ビューティーワールド ジャパン」に初めて出展し、『be SMART』をテーマに、サロンの様々な課題に対応するため当社ならではの視点で開発してきた多彩なサービスを美容業界の皆様へ訴求してまいりました。

また、エネルギー事業は、業務店の店舗や建物並びに商業施設向けサービスラインナップの一環として取り組んでおり、高圧小口を中心に電力販売等を進めてまいりました。

その結果、その他事業の当第3四半期連結累計期間における売上高は5,607百万円（前年同四半期比33.1%増）、営業損失は972百万円（前年同四半期は219百万円の営業損失）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

①資産、負債及び純資産の状況

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べ4,249百万円増加し、73,385百万円（前連結会計年度末比6.1%増）となりました。

(資産)

資産に関しましては、現金及び預金が1,209百万円減少したこと、投資その他の資産が5,187百万円増加したこと等により、前連結会計年度末に比べ4,249百万円増加し、73,385百万円（前連結会計年度末比6.1%増）となりました。

(負債)

負債に関しましては、長期借入金が5,379百万円減少したこと等により、前連結会計年度末に比べ5,722百万円減少し、35,675百万円（前連結会計年度末比13.8%減）となりました。

(純資産)

純資産に関しましては、親会社株主に帰属する四半期純利益を5,371百万円計上したこと、会計方針の変更により利益剰余金が5,152百万円増加したこと等により、前連結会計年度末に比べ9,971百万円増加し、37,709百万円（前連結会計年度末比35.9%増）となりました。

②キャッシュ・フローの状況

当第3四半期連結累計期間における連結ベースの現金及び現金同等物（以下「資金」という）は、前連結会計年度末に比べ1,209百万円減少の9,656百万円となりました。当第3四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第3四半期連結累計期間の営業活動による資金の収入は、10,016百万円（前年同四半期比15.5%減）となりました。その主な要因は、税金等調整前四半期純利益を7,567百万円、減価償却費を3,747百万円計上したこと、法人税等の支払により資金が1,698百万円減少したこと等によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第3四半期連結累計期間の投資活動による資金の支出は、4,977百万円（前年同四半期比40.2%減）となりました。その主な要因は、有形固定資産の取得により資金が2,855百万円減少したこと等によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第3四半期連結累計期間の財務活動による資金の支出は、6,247百万円（前年同四半期比51.1%増）となりました。その主な要因は、長期借入による収入により資金が14,741百万円増加したこと、長期借入金の返済により資金が20,120百万円減少したこと等によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、平成28年10月12日の決算短信で公表いたしました通期の連結業績予想から変更はありません。

なお、本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日。以下「回収可能性適用指針」という)を第1四半期連結会計期間から適用し、繰延税金資産の回収可能性に関する会計処理の方法の一部を見直しております。

回収可能性適用指針の適用については、回収可能性適用指針第49項(4)に定める経過的な取扱いに従っており、第1四半期連結会計期間の期首時点において回収可能性適用指針第49項(3)①から③に該当する定めを適用した場合の繰延税金資産及び繰延税金負債の額と、前連結会計年度末の繰延税金資産及び繰延税金負債の額との差額を、第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金及びその他の包括利益累計額に加算しております。

この結果、第1四半期連結会計期間の期首において、繰延税金資産(流動資産)が47百万円、繰延税金資産(投資その他の資産)が5,178百万円、利益剰余金が5,152百万円、退職給付に係る調整累計額が86百万円増加し、その他有価証券評価差額金が13百万円減少しております。

3. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成28年8月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年5月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	10,865	9,656
受取手形及び売掛金	5,784	5,969
商品及び製品	773	1,056
仕掛品	279	277
原材料及び貯蔵品	1,274	1,882
その他	3,325	3,299
貸倒引当金	△183	△184
流動資産合計	22,120	21,956
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	13,368	12,401
土地	21,206	21,145
その他（純額）	3,593	3,734
有形固定資産合計	38,168	37,282
無形固定資産		
その他	2,274	2,387
無形固定資産合計	2,274	2,387
投資その他の資産		
長期貸付金	8,467	8,208
その他	3,131	8,329
貸倒引当金	△5,027	△4,777
投資その他の資産合計	6,571	11,759
固定資産合計	47,015	51,429
資産合計	69,136	73,385
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	5,868	6,422
1年内返済予定の長期借入金	6,032	3,500
その他の引当金	731	119
その他	11,313	11,343
流動負債合計	23,945	21,385
固定負債		
長期借入金	13,788	10,941
退職給付に係る負債	2,719	2,586
その他の引当金	232	206
その他	712	557
固定負債合計	17,452	14,290
負債合計	41,398	35,675

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成28年8月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年5月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	6,000	6,000
資本剰余金	5,165	5,165
利益剰余金	17,357	27,263
自己株式	△541	△577
株主資本合計	27,981	37,851
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	84	80
退職給付に係る調整累計額	△327	△222
その他の包括利益累計額合計	△242	△142
純資産合計	27,738	37,709
負債純資産合計	69,136	73,385

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第 3 四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第 3 四半期連結累計期間 (自 平成27年 9 月 1 日 至 平成28年 5 月31日)	当第 3 四半期連結累計期間 (自 平成28年 9 月 1 日 至 平成29年 5 月31日)
売上高	54,671	56,961
売上原価	23,201	25,017
売上総利益	31,469	31,944
販売費及び一般管理費	23,702	23,741
営業利益	7,766	8,202
営業外収益	136	139
営業外費用		
支払利息	363	193
借入手数料	302	—
その他	93	103
営業外費用合計	759	297
経常利益	7,143	8,044
特別利益		
固定資産売却益	66	85
その他	0	—
特別利益合計	66	85
特別損失		
固定資産除却損	583	563
その他	—	0
特別損失合計	583	563
税金等調整前四半期純利益	6,626	7,567
法人税、住民税及び事業税	1,093	1,037
法人税等調整額	44	1,158
法人税等合計	1,137	2,195
四半期純利益	5,488	5,371
親会社株主に帰属する四半期純利益	5,488	5,371

四半期連結包括利益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成27年9月1日 至平成28年5月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成28年9月1日 至平成29年5月31日)
四半期純利益	5,488	5,371
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△6	9
退職給付に係る調整額	23	18
その他の包括利益合計	16	27
四半期包括利益	5,505	5,399
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	5,505	5,399
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成27年9月1日 至平成28年5月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成28年9月1日 至平成29年5月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	6,626	7,567
減価償却費	4,213	3,747
のれん償却額	995	—
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	7	1
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	△157	△107
支払利息	363	193
借入手数料	302	—
固定資産売却損益 (△は益)	△66	△85
固定資産除却損	583	563
売上債権の増減額 (△は増加)	△393	△184
仕入債務の増減額 (△は減少)	520	594
前受金の増減額 (△は減少)	350	517
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△443	△888
その他	242	88
小計	13,144	12,007
利息及び配当金の受取額	8	6
利息の支払額	△353	△299
法人税等の支払額	△943	△1,698
営業活動によるキャッシュ・フロー	11,856	10,016
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△2,953	△2,855
有形固定資産の売却による収入	83	191
有形固定資産の除却による支出	△837	△770
投資有価証券の取得による支出	△5	△793
無形固定資産の取得による支出	△521	△602
長期貸付けによる支出	△3,745	—
その他	△344	△148
投資活動によるキャッシュ・フロー	△8,324	△4,977
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入れによる収入	23,698	14,741
長期借入金の返済による支出	△22,132	△20,120
配当金の支払額	△126	△612
優先株式の取得による支出	△5,456	—
その他	△119	△256
財務活動によるキャッシュ・フロー	△4,135	△6,247
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△603	△1,209
現金及び現金同等物の期首残高	13,682	10,865
現金及び現金同等物の四半期末残高	13,079	9,656

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 平成27年9月1日 至 平成28年5月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	音楽配信 事業	業務用 システム 事業	I C T 事業	計				
売上高								
外部顧客への売上高	30,400	12,293	7,873	50,567	4,103	54,671	—	54,671
セグメント間の 内部売上高又は振替高	33	126	4	164	108	273	△273	—
計	30,434	12,420	7,877	50,732	4,212	54,944	△273	54,671
セグメント利益又は 損失(△)	6,666	1,569	532	8,768	△219	8,549	△783	7,766

(注) 1. 「その他」区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、既存業務店顧客の集客を支援する集客支援事業や音楽著作権の管理、開発事業等を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額△783百万円は、セグメント間取引消去等であります。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第3四半期連結累計期間(自 平成28年9月1日 至 平成29年5月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	音楽配信 事業	業務用 システム 事業	I C T 事業	計				
売上高								
外部顧客への売上高	30,765	12,110	8,593	51,468	5,493	56,961	—	56,961
セグメント間の 内部売上高又は振替高	158	101	43	303	114	417	△417	—
計	30,923	12,211	8,636	51,772	5,607	57,379	△417	56,961
セグメント利益又は 損失(△)	7,116	1,238	616	8,972	△972	7,999	203	8,202

(注) 1. 「その他」区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、既存業務店顧客の集客を支援する集客支援事業、エネルギー事業、音楽著作権の管理・開発事業や新規商材・サービスの開発・立ち上げ等を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額203百万円は、セグメント間取引消去等であります。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。